

第3学年1組 国語科学習指導案  
指導者

1 単元 自分をしょうかいするスピーチをしよう「知ってほしいな、自分のこと」

2 目標

- 自分のことをクラスの友達に知ってもらいたいという意欲を持って、スピーチしたり、スピーチの練習に取り組みたいとする。(関心・意欲・態度) ①
- 伝えたいことを選び、筋道を立てて、聞き手に自分の考えがよく分かるように話すことができる。また、話の中心に気を付け、自分の感想を持ちながら聞くことができる。(話すこと・聞くこと) ②
- 相手や目的を意識し、適切な言葉遣い、音量、速さで話すことができる。(言語事項) ⑤

3 単元の評価規準

①国語への 関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	⑤言語についての 知識・理解・技能
自分のことをクラスの友達に知ってもらいたいという意欲を持ってスピーチしたり、スピーチの練習に取り組みたいしている。友達のスピーチに興味を持って聞いている。	伝えたいことを選び、それが聞き手に分かるように筋道を立ててスピーチ原稿を書くことができる。 聞き手に自分の考えがよく分かるように、音量・発音・速さ・表情・視線などを工夫して話すことができる。 話の中心に気を付け、自分の感想を持ちながら聞くことができる。	相手を意識し、適切な言葉遣いで話すことができる。 状況や目的に応じ、適切な音量や速さで話すことができる。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の話すこと・聞くことア「伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」と、イ「話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること」をねらいに構成されている。

本単元は、2か月近くいっしょに生活してきたクラスの友達に、今までとは違った自分を知ってもらうための自己紹介を行うというものである。小学校学習指導要領解説 国語編には、「話すときには、具体的な相手や目的を意識することによって活動への意欲は高まり、話す内容や方法を考えたりすることにつながっていく。」と書かれている。本単元でも、児童に相手意識、目的意識をしっかりと持たせ、活動への意欲を高めることにより、自分の考えが分かるように話す能力を育てることができると考える。

(2) 児童の実態 (在籍：28人)

(調査実施日：5月1日)

1 友達の前で話すことが好きですか。	好き12人 嫌い16人
2 友達の前で話すときに次のことに気を付けていますか。	
(1) 知らせたいことを選んで話す。	はい21人 いいえ7人
(2) 順序を考えて話す。	はい19人 いいえ9人
(3) 相手を見て話す。	はい25人 いいえ3人
(4) ちょうどいい速さで話す。	はい21人 いいえ7人
(5) みんなに聞こえるような声で話す。	はい20人 いいえ8人
(6) 良い姿勢で話す。	はい18人 いいえ10人
(7) 間を取って話す。	はい13人 いいえ15人
(8) 笑顔で話す。	はい11人 いいえ17人
(9) はっきりした発音で話す。	はい10人 いいえ18人

上記の意識・実態調査から、本学級の児童のほとんどが、話す内容について意識していることが分かる。また、「今年の抱負」についてのスピーチを行ったところ、知らせたいことを選べた児童は26人、筋道を立ててスピーチ原稿を書くことができた児童は22人だった。その反面、みんなに聞こえるような音量、はっきりした発音、適切な速さで、自分の考えが聞き手によく伝わるように話すことができた児童は6人だった。話し方に問題があるため、話す内容はしっかりしたものを持っていても

それがうまく伝えられない児童がたくさんいることが分かった。

(3) 指導観

児童の実態から、伝えたい事を選び、筋道を立てて内容を構成させる指導と合わせて、適切な音量や速さなど、言語事項についての指導が必要であると考えた。そこで、本単元ではまず、伝えたいことを選び、最も伝えたい中心をどこにするか決め、話す順序を考えるという話す内容についての学習を行う。次に、相手に自分の考えが分かるようにするには、筋道を立てるなどの話す内容と、音量、発音、表情、視線等の話す方法が、どちらも大切であることを認識させる。その上で、適切な音量や発音を意識してスピーチの練習をさせる。その様子を録画したものをコンピュータに記録し、繰り返し自己評価、相互評価を行って、友達のよい表現を自分の表現に生かせるようにする。また、評価をする際には、評価の観点と到達目標が明確に示されたチャート式の評価表を用い、それぞれの目標への到達度が児童に一目で分かるようにする。このように、話す内容についての学習と合わせて行う話す方法についての学習の工夫を通して、自分の考えが分かるように話す能力を育てていきたいと考えた。

5 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	<p>1 クラスの友達に対し、今までとは違った自分を知ってもらうためのスピーチを行うということを知る。 自分のことをマインドマップに書き出そう。</p> <p>2 マインドマップに書き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スピーチ大会の後に審査を行い、一番印象的なスピーチをした人を表彰することを伝え、意欲を高める。</li> <li>○ 自分のことをなるべくたくさんマインドマップに書き出させるようにする。</li> </ul>	<p>自己紹介するために、知ってもらいたいことを進んで書き出している。 (マインドマップ①)</p>
2	<p>1 友達に知らせたいことの中から、スピーチで取り上げる事柄を選ぶ。 どんな順序で話すか考えて構成メモを作り、スピーチ原稿を書こう</p> <p>2 構成メモを作る。</p> <p>3 スピーチ原稿を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選んだ事柄をどんな順序で話せば聞き手によく伝わるか考えて、構成メモを作らせる。</li> <li>○ 実際にスピーチする場面を思い浮かべ、どのように話したら聞き手を引きつけられるかを考えて原稿を書くようにさせる。</li> </ul>	<p>自分の伝えたい事が聞き手に分かるように、段落相互の関係を工夫してスピーチ原稿を書いている。 (スピーチ原稿②)</p>
3	<p>大事な言葉を抜き出して、スピーチメモを作ろう。</p> <p>1 スピーチメモを作る。</p> <p>2 スピーチの練習をし、録画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原稿からキーワードを順番に抜き出し、スピーチメモを作らせる。</li> <li>○ メモを見ながらスピーチできるようにする。</li> </ul>	<p>意欲的にスピーチの練習の取り組んでいる。 (行動観察①)</p>
4	<p>スピーチをするとき、何が大切か考えよう。</p> <p>1 みんなの前でスピーチをするとき、何に気を付けたらよいか話し合う。</p> <p>2 話す方法の大切さを知る。</p> <p>3 この単元で取り組む5つの観点とそれぞれの到達目標について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音量・発音・速さ・表情・視線について、ビデオ、教師の演じ分け、児童の活動により、その重要性を体感させる。</li> <li>○ 5つの観点とその到達目標について知らせ チャート式評価表を用いた評価の方法について理解させる。</li> </ul>	<p>話す方法の大切さを実感している。 (行動観察②⑤)</p>
5	<p>適切な声の大きさや速さについて知り、練習しよう。</p> <p>1 適切な音量について知る。</p> <p>2 適切な音量や大小の工夫について、教師が用意した教材文で練習する。</p> <p>3 適切な速さについて知る。</p> <p>4 適切な速さについて練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クラス全員の前で話すときの適切な音量を理解させる。</li> <li>○ 特に強調したいところは大きな声で言うなどの大小の工夫も必要であることを理解させる。</li> <li>○ 1分間に300文字程度が聞きやすい速さであることを理解させる。</li> <li>○ グループで練習させ、お互いにアドバイスし合えるようにする。</li> </ul>	<p>スピーチの練習に意欲的に取り組んでいる。 (行動観察①)</p> <p>適切な音量・速さでスピーチの練習をすることができる。 (行動観察②⑤)</p>
6	<p>声の大きさ・発音・速さ・表情・視線に気を付けてスピーチの練習をし、録画しよう。</p> <p>1 グループでスピーチの練習をする。</p> <p>2 スピーチの練習の様子を録画して、コンピュータに記録する。</p> <p>3 コンピュータの映像を見ながら、自己評価・相互評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5つの観点を意識しながらグループで練習し、お互いにアドバイスし合えるようにする。</li> <li>○ チャート式評価表を用い、判定尺度に基づいて客観的に自己評価・相互評価ができるようにする。</li> </ul>	<p>音量・発音・速さ・表情・視線を意識しながら、練習に取り組んでいる。 (行動観察・録画②⑤)</p>
7 本 時	<p>自分や友達の映像を見て、よいところを取り入れよう。</p> <p>1 自分の映像と評価結果を見る。</p> <p>2 友達の映像と評価結果を見る。</p> <p>3 友達のよい表現を取り入れながら、グループごとに繰り返し練習する。</p> <p>4 スピーチの練習の様子を録画して、コンピュータに記録する。</p> <p>5 前時と本時の自分のスピーチの様子を比べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の苦手な観点について高く評価されている友達の映像を見て、それを自分表現に取り入れられるようにする。</li> <li>○ どの観点について特に意識して行うのかをグループの友達に知らせ、お互いにアドバイスし合えるようにする。</li> <li>○ 自分の意識して練習した観点についての力が高まったかどうか確認させる。</li> </ul>	<p>適切な音量・発音・速さ・表情・視線でスピーチの練習を行っている。 (行動観察・録画②⑤)</p>
8	<p>声の大きさ・発音・速さ・表情・視線に気を付けて、自分のスピーチの練習しよう。</p> <p>1 5つの観点到に注意しながら自分のスピーチの練習をする。</p> <p>2 スピーチの様子を録画し、自己評価しながら、繰り返し練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今まで教材文で練習してきたことを自分のスピーチに生かせるようにする。</li> <li>○ 各自、カメラの設置してあるところに行き、録画・自己評価を繰り返し行えるようにする。</li> </ul>	<p>適切な音量・発音・速さ・表情・視線でスピーチの練習に取り組んでいる。 (行動観察・録画②⑤)</p>
9	<p>スピーチ大会をしよう。</p> <p>1 5つの観点到に注意し、自分の考えが聞き手に伝わるようにスピーチをする。また、もっと詳しく知りたいことはないか考えながら友達のスピーチを聞く。</p> <p>2 一番思いが伝わったのは誰のスピーチか審査する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スピーチ大会のめあてを確認する。</li> <li>○ 5つの観点を十分に意識させ、自分の新たな面を知ってもらいたいという思いをこめてスピーチさせるようにする。</li> <li>○ スピーチで初めて知ったことを「友達発見カード」に書かせる。</li> </ul>	<p>話の中心に気を付け、自分の感想を持ちながら興味を持って聞いている。 (行動観察・カード①②)</p> <p>相手を意識し、適切な音量・発音・速さ・表情・視線でスピーチをしている。 (スピーチ・録画②⑤)</p>

## 6 本時の学習

### (1) 目標

- 自分や友達のスピーチの練習の映像を見て、良い表現を取り入れながら繰り返し練習することにより、適切な音量・発音・速さ・表情・視線という話す方法についての能力を高めることができる。

### (2) 準備・資料

- ・ 小型ムービーカメラ
- ・ 観点別ランキング表

### (3) 展開

学習活動・内容	教師の支援・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>自分や友達のスピーチの練習の映像を見て、良いところを取り入れよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に録画した映像と評価の結果を見て、友達の良い表現を取り入れながら繰り返し練習を行っていくことを伝える。</li> </ul>
<p>2 自分の映像と評価の結果を見る。</p> <p>(1) 自分のスピーチの練習の映像を見る。</p> <p>(2) チャート式評価表による評価の結果を見て、自分の良くできているところ、苦手なところを確認する。</p> <p>(3) 映像を見て自分のスピーチを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の映像を見て、自己評価の結果を思い出させる。</li> <li>・ チャート式評価表を見て、それぞれの観点について友達がどのように評価してくれたのか確認させ、自分の良くできているところ、苦手なところをつかませるようにする。</li> <li>・ もう1度自分の映像を見て、どのような表現が高く、または低く評価されているのか、再度確かめさせる。</li> <li>◎ 話すことが苦手な児童は、自分の映像を見ることが苦痛であると思われるので、映像の中から良い表現を見つけてほめることによって自信を持たせるようにする。</li> </ul>
<p>3 友達の評価の結果と映像を見る。</p> <p>(1) 自分の苦手な観点についての評価が高い友達は誰か調べる。</p> <p>(2) その友達の映像を見て、自分の映像と比較し、参考にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が低く評価されていた観点について、高く評価されている友達は誰か、観点別のランキングを見て確認させる。</li> <li>・ 複数の友達の映像を見ることにより、どのように表現すればよいのかに気付かせる。</li> <li>◎ 5観点全てが高く評価されている児童については、友達の良い表現をたくさん見て、どこがどのようによいかを考えさせることにより、さらに表現の工夫をさせる。また、低く評価されている観点が多い児童については、特にどの観点について意識したらよいかをいっしょに考え、目標をしばらせるようにする。</li> </ul>
<p>4 友達の良い表現を取り入れながら、グループごとに繰り返し練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに場所を決め、ついたてを置いて、集中して練習できるようにする。</li> <li>・ 話し手と聞き手を交代しながら、一人2～3回行う。</li> <li>・ どの観点について特に意識して練習するのかをグループの友達に知らせ、お互いにアドバイスし合えるようにする。</li> <li>・ 各グループの練習がスムーズに行えるよう援助する。</li> <li>◎ 少しでも伸びた点をさがし、認め、励ますようにする。</li> </ul>
<p>5 グループごとにスピーチの練習の様子を録画し、コンピュータに記録する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ムービーカメラの動作を確認し、きちんと撮影できるようにしておく。</li> <li>・ どの観点について特に意識して行うのか、目標をしっかり持って録画させるようにする。</li> <li>◎ 話すのが苦手な児童には、目標をしばらせ、少しでも伸びが見られればよいことを話し、のびのびと取り組ませるようにする。</li> <li>☆ 適切な音量・発音・速さ・表情・視線でスピーチの練習をしている。(スピーチの練習・録画②⑤)</li> </ul>
<p>6 前時と本時の自分のスピーチの様子を比較する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が意識して練習した観点についての力が高まったかどうか確認させる。</li> <li>◎ 良い表現や伸びたところを見つけてほめることにより自信を持たせるようにする。</li> </ul>
<p>7 学習のまとめをし、次時の活動について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で学習した話す方法についての五つの観点を生かし、次からはいよいよ自分のスピーチを行うことを伝え、意 付けを図る。</li> </ul>

◎個への対応 ☆評価の観点

# 話し方 ひょうかのきじゅん

かん点	1	3	5
声の大きさ	よく聞こえない。	聞き手全員によく聞こえる。	特に強く言いたいところを考慮して、大小のくふうをしている。
はつ音	口のあけ方が小さく、なんとなく言っているのかはっきり聞き取れない。	口を正しくあけて話しており、なんとなく言っているのか聞き取れる。	せすじをのぼし、口を正しくあけて話しており、なんとなく言っているのかはっきり聞き取れる。
はやさ	かだいのスピーチ(175文字ていど)を27びょう以下、または、43びょう以上で話している。	かだいのスピーチ(175文字ていど)を30～31びょう、または、39～40びょうで話している。	かだいのスピーチ(175文字ていど)を34びょう～36びょうで話している。
顔のひょうじょう	まったくえがおが出ない。	半分以上の時間、えがおで話している。	ずっとえがおで話している。
しせん	うつむいていて、聞き手を見ていない。	半分以上の時間、聞き手の方を見ている。	ずっと聞き手の方を見ており、一人一人と目を合わせている。

# スピーチメモ



はじめ

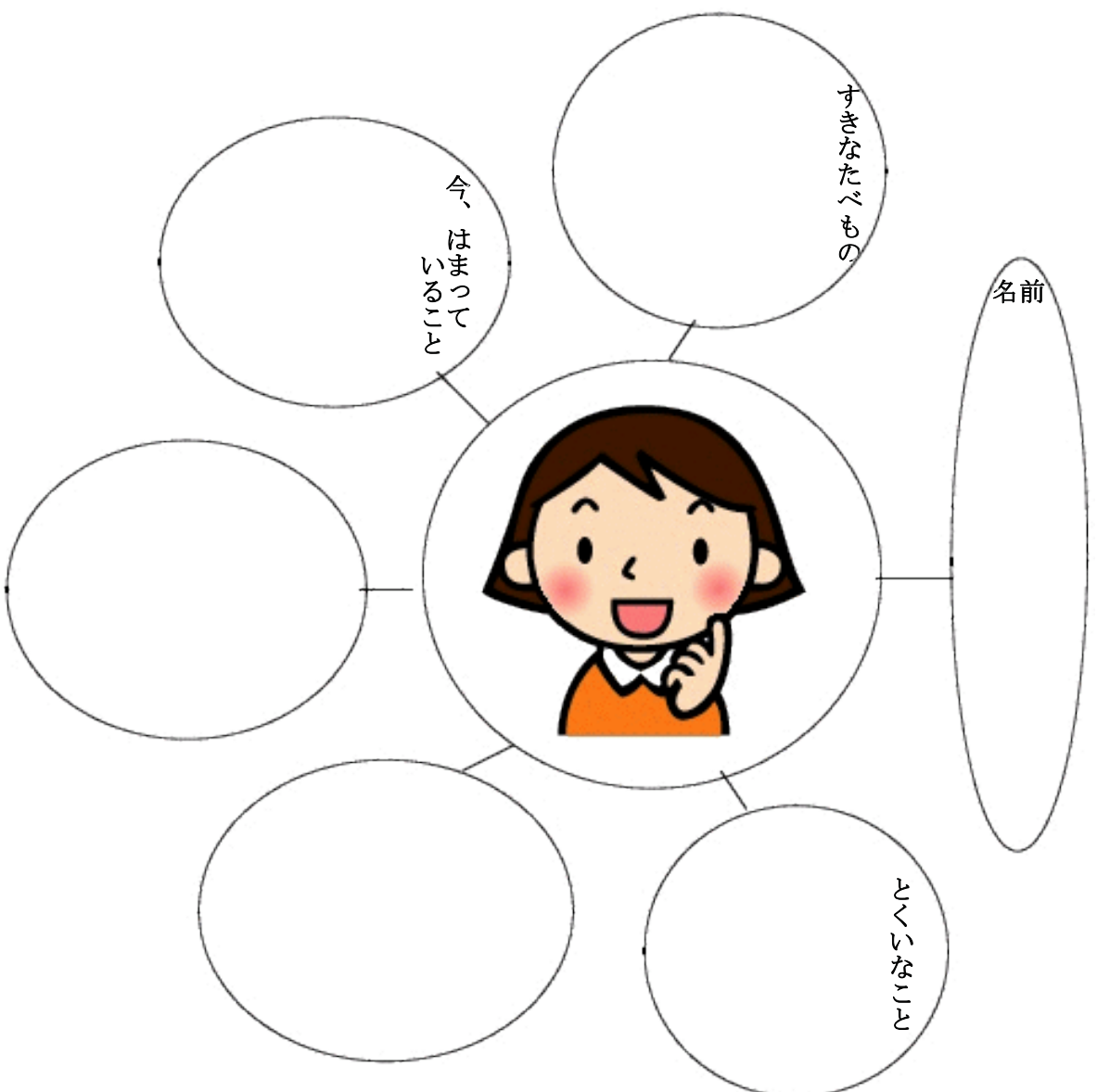
名前

おわり



# 「知っているな、自分のこと」メインメンバー

☆ 自分について、知ってもらいたいことを書き出そう。



# こうせいメモ



はじめ

名前



おわり